神奈川歯科大学
同窓会会報

137号　2023年1月

Kanagawa Dental University Alumni Association

https://inaoka82.com/

巻頭言……会長 大舘　満　2

アフターコロナ社会における歯科医療と歯学教育の展望……櫻井　孝　3

学術講演会報告　咬合フォーラム「“臨床の匠が次世代へ伝える極意„」……山中秀起　5

「唾液の機能性の基礎と臨床応用のポイント」／槻木恵一先生 ‥ 原　めぐみ　7

「臨床の疑問に答える治癒の病理～最新情報～」／下野正基先生 ‥ 藤野拓郎　7

「歯医者が患者になった～私の義歯体験記～」／村岡秀明先生 ‥‥ 中尾　伸　8

「天然歯の保存にこだわる」／渥美克幸先生 ……渡邉　亮一郎　8

学術報告　唾液に注目する時代が来た……槻木恵一　9

会務報告（令和４年７月から 12 月まで）……　11

被災された同窓生への災害支援に関する経過報告……　12

同窓便り　北海道地区連合／東北地区連合……13,14

四国地区連合／福島県支部……15,16

埼玉県支部／千葉県支部……17,18

大阪府支部／大分県支部……19,20

お知らせ……　21

- 表紙題字：大舘　満 会長
- 表紙写真：川端啓義（広報担当常務理事）
- P.13 ～ P.20 の「同窓便り」に公益社団法人 日本歯科医師会 広報課より許可をいただき、日本歯科医師会 PR キャラクター「よ坊さん」のイラストを使用しています。

巻頭言
2023/1

年頭のご挨拶

神奈川歯科大学同窓会
会長 大舘 満

新年、明けましておめでとうございます。皆様には日ごろより同窓会活動に対しご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。昨年より新型コロナウイルスはオミクロン株に代わり重症化は少ないようですが感染力が強くまだまだ気を許すことができません。口腔ケアの効用はオミクロン株になり若干減少しています。ウイルスの変異により感染機序が変化し、高齢者のみならず若年層でも多くの感染が確認されています。第8波に入りインフルエンザとの相互感染が懸念されています。今後も口腔ケアを大切にして歯科医院のクラスター発生を防いでいければと考えております。

昨年は新型コロナ感染だけでなく大小の地震が毎週のように発生しております。台風被害は意外と少なく、安堵しましたが豪雨による自然災害は多く報告されています。地球規模での温暖化問題を何とか食い止めて行かなくては子供や孫たちに顔向けできません。知恵を出し合ってこの困難を乗り越えて行かなければなりません。同窓会もSDGsを念頭に活動を行ってまいります。

昨年から学校法人神奈川歯科大学おいては本館建て替えを中心とした「キャンパス改造事業募金」を募っております。締め切りが近づいてまいりました。改めて母校の発展のためにご協力をお願いいたします。

また、ここ数年、少子化の影響で受験生の減少が始まっております。歯科の魅力の低下、物価高騰の中での学費負担が今まで以上に足かせとなっています。同窓会としては優秀な学生を集め、神奈川歯科大学の将来を見据えて応援していきたいと考えております。卒業生の「子女枠」を改め卒業生の推薦で子女でない受験生も認める「卒業生推薦枠」となり、気楽に推薦できる制度となっています。皆様の近隣のお知り合いの子女でも可能ですのでご紹介のほどよろしくお願いいたします。

本部同窓会おいては新型コロナウイルス感染予防の観点から同窓会創立50周年を中止させていただきました。改めて50周年、あるいは55周年記念式典として検討いたしております。コロナ禍の終息を見極めての開催となると思いますので会員の皆様にもご理解をいただきたくお願い申し上げます。

また、コロナ前からコロナ禍、そしてコロナ後に対応した会務運営を協議しておりますが代議員会で会則を変えていかなければならない事項も多く実際の対応はコロナ禍の後になると思います。

ただ、このような中でもマイナスだけではなく学術講演会では在宅でのオンライン講習会、あるいは参集とオンラインのハイブリッド開催と大きな進化をしております。今まで大きな不公平とされていた遠方の方への対応です。飛行機や新幹線を使って参加する場合の交通費や宿泊費など支出は大変な金額となります。在宅で学術講習会に参加でき、費用は圧縮され負担がほとんどなくなります。コロナ後もハイブリッドの形で継続していきたいと考えています。

コロナ後の同窓会を見据えて今後も多くの改革が必要となります。皆様には今後ともご高配とご指導、ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。本年こそは新型コロナウイルス蔓延終息を祈念して年頭の挨拶とさせていただきます。

アフターコロナ社会における
歯科医療と歯科医学教育の展望

神奈川歯科大学 学長　櫻井　　孝

同窓生の皆様、新年おめでとうございます。謹んで新春の御慶びを申し上げます。この度は同窓会の会報新春号において、皆様に御挨拶させていただける大変貴重な機会を頂戴し誠に有難うございます。厚く感謝申し上げます。また、同窓会会員の皆様におかれましては、平素より本学に対する多大なる御理解と御支援、御協力を賜り心から感謝致しております。重ねて御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症によって世界が蹂躙されて以降、３年が経過しようとしております。この間、社会は大きな変貌を遂げ、それまでの日常が失われました。2020年度の春、日本全国において高等教育を含む全ての教育活動が停止し、再開に向けて必死の対応がはかられました。本学におきましても、前年度から準備していたカリキュラムが完全に実施不可能となり、複数回に渡りカリキュラムを作成し直すこととなりました。また、学生達が大学に登校して学修に取り組むという、至極当たり前の行為が実施できなくなり、学生達の安全を確保しつつ、何とか無事に必要な教育を提供するため、全教職員が必死で対策に取り組んだことを昨日の事のように想い出します。本学におきましては、2014年の教育改革以来、全ての講義を録画し、学生達に視聴していただくための授業ライブラリーを構築していたことから、そのシステムを発展させることにより、他大学に先駆けて学生達が自宅から授業に参加できるハイブリッド型講義を開始することができました。ハード面での整備が非常に迅速に進んだことから、むしろ教員の日程調整の方が困難であり、特に臨床系教員は患者様の安全確保を含め病院での対応にも迫られたことから、当初は日程の調整が困難で録画授業を提供するような状況も生じ、保護者様からクレームをいただくような経験もございました。恐らくこれまでの私の人生経験の中で、最も危機的な状況の一つであり、冷や汗をかくような事態の連続でした。しかしながら、学生達をはじめとする関係者皆様の御協力と御努力のお陰により、一昨年度、昨年度と何とか例年通りの学修成果を修めることができましたことを、本当に感謝いたしております。同窓生の皆様におかれましても、この間物心共に様々な御苦労を重ねてこられておられることと拝察いたします。衷心よりお見舞いを申し上げます。

当初は国策として実施されてきた様々な感染対策は、現在徐々に個人によるリスク管理へと移行しつつあります。我々医療人としては、どうしても健康福祉面に目を向けがちですが、社会全体としては経済政策を重要視せざるを得ないということなのかもしれません。新型コロナウイルス感染症による国内の死亡者数は既に四万五千人を突破し、その危険性が低下したわけではありませんが、我々は、好むと好まざるとにかかわらず新しい社会秩序に対応していかなければなりません。さらに、我が国においては超高齢社会の到来という、より深刻な問題を抱えております。労働人口の比率が今後も低下し続け、後期高齢者の比率が増加していくという純然たる事実に対し、我々の歯科医療はより良い社会を創造していくために非常に大きな貢献を果たせる可能性があります。同窓生の先生方には釈迦に説法となりますが、近年歯周病が心血管疾患、アルツハイマー型認知症、糖尿病など、非常に多くの疾患に関与することが科学

的に明らかとなったことを受け、支えきれないほど重くなりつつある国民医療費を抑制する上においても、歯科医療に対する期待が高まっております。人口減少の影響を受けて全国の総合病院数が継続的に減少している中、歯科口腔外科を備える病院が逆に増加していることなどは、その現れではないでしょうか。現在、政府による国民皆歯科健診制度の検討も開始され、どの様な帰結となるかわかりませんが、いずれにしても今後益々歯科医療に寄せられる期待の高まることが予測されます。

一方で、これまでに歯科医師過剰という意識が国民に定着しております。昭和50年代までの歯学部増加の影響を受け、歯科医師数は急速に増加いたしました。しかしながら、歯学部入学者数の政策的削減と、歯科医師国家試験に相対的評価が導入されたことにより、歯科医師数の増加は頭打ちとなりました。まだ数値的な減少は明瞭化しておりませんが、歯科医師の平均年齢は60歳に近づきつつあります。また、歯学部入学者数は、ピーク時の3,500人台から現在2,200人程度まで減少し、間もなく毎年その差分の減少を生じることになります。2020年３月の日本歯科総合研究機構調査報告によると、歯科診療所開設者の46.8％は60歳以上であり、3/4以上が50歳以上に達しているそうですが、その内明らかに継承予定が無い施設だけでも52.5％に及び、不明の状態の施設を含めると９割以上になるようです。そして、2017年をピークとして、既に歯科診療所数の減少が始まっています。もう一つの大きな問題は、歯科医師配置の著明な偏在であり、東京都、福岡県、徳島県など、歯科医師が集中している地域がある一方、青森県、滋賀県、福井県、鳥取県等々、東京都の半数に満たない県が多数生じています。超高齢社会を迎え、歯科訪問診療の必要性は今後益々高まるものと予測されますが、訪問診療提供施設が15％程度にとどまり、余り増加しない理由の一つとして、その様な背景も影響しているのではないでしょうか。

同窓生の先生方も御存知の通り、本学は建学の精神として「全てのものに対する慈しみの心と生命を大切にする愛の精神の実践」を掲げる歯科大学です。一人一人の患者様の気持ちを理解し、寄り添った歯科医療を提供できる歯科医師の育成を目指しております。歯科医療に求められる国民からの要望は年々多様化しており、疾病構造も大きく変化しております。また、災害医療への協力、摂食嚥下リハビリテーション、睡眠歯科、再生医療など、歯科医師の活躍する場は従来よりも益々拡大しております。６年間という限られた歯学教育課程において、学修しなければならない知識は増加し続けるため、大学にはより効率性の高い教育を提供していくことが求められております。現在本学では、AIを用いた問題作成システムの構築や、XR技術を駆使した学修教材の開発など、課題解決に向けての新たな取り組みに挑戦し続けています。アフターコロナ社会に適したより良い歯科医学教育を構築すべく、今後も日々努力してまいります。

同窓生の皆様におかれましては、今後とも本学への御理解と御支援を賜りますよう御願い申し上げます。末筆となりましたが、皆様の御健勝と、本年が皆様にとって素晴らしい一年となりますことを御祈念申し上げ、新春号に寄せての御挨拶とさせていただきます。

咬合フォーラム「“臨床の匠が次世代へ伝える極意„」

学術担当常務理事　山中秀起（15 回生）

令和４年３月13日（日）においてWebでの講演会が開催された。大舘　満会長のご挨拶に始まり、藤野拓郎委員の司会進行で会は進行した。

第一部は、日本歯科大学名誉教授 小出　馨先生の“事前に学ばなかった咬合の重要事項を知る”である。卒前教育で学ばなかった、認識のなかったことを教室での研究を基にして懇切丁寧にご講演いただいた。

先生は初診問診時にすべての患者様に筋と顎関節の触診を行うことによりこれらが経年変化でどのような状態になっているかを確認することが治療行為に先立ち重要であると力説された。患者様は咬合時の自発痛、運動痛は感じていないが、問診時、歯科医師に触診され初めて痛みを筋や顎関節に感じる場合は顎関節と調和していない状態、

１．早期接触、臼歯部の咬合低位

２．平衡側の咬合干渉

３．後方へのブレーシングイコライザーの欠如

というような咬合の問題が生じており、このような圧痛を見逃し従来の咬合関係で治療を終了すると様々な問題が生じる可能性はあると提言された。この症状を軽減するための一つとしてスプリント療法を行い、この咬合関係を付与した舌側面を形成する事を述べられた。

また、咬合採得時体位が水平位で採得すると後方へ偏位するので第一小臼歯あたりで早期接触があるので、顆頭安定位を維持しやすい、背もたれ25度ヘッドレスト35度に設定する。

先生の研究からも臨床で有効な咬合高径の決定基準のひとつとして閉口時口唇接触位―上唇赤唇部の面積により決定した安静空隙で咬合高径を割り出すとしている。

咬合採得の手順で顆頭安定位（中心位）の誘導法としてドーソンテクニックも教授していただいた。

第二部は、日本臨床歯科学会（SJCD）　副理事長　本多正明先生には“咬頭嵌合位の重要性　～咬合・補綴治療から考察～“を多くの長期予後を示す症例報告を示しながらご講演いただいた。

歯科診療は義歯からインプラントの時代になってきた。歯科治療の目的は病因の除去・抑制、病的組織・咬合の改善とともに審美性改善ともに機能美でなくてはならない。

治療目標は力のコントロールと炎症のコントロール、それによって長期予後が期待できる。

その中でも力のコントロールにフォーカスし良好な咬合支持を有し上下の歯列弓を安定させることによって、咬頭嵌合位を安定させることが可能になる。咬頭嵌合位を安定させるためには咬合接触点つまりポイントセントリックであること。適正なバーティカルストップは咬頭嵌合位の維持、安定に重要である。臼歯部咬合面形態では咬頭嵌合位の前後的安定のためにクロジャーストッパー、イコライザーや咬頭嵌合位の左右的安定のためにABCコンタクトを付与し咬頭滑走する時、咬合干渉をさけるため特に上顎第一大臼歯では三角隆線の幅を広く角度をとり頬側溝はUの字にしFunctinal roomを十分にとれる咬合面形態とする。また、前歯部では適正なアンテリアカップリングを有するアンテリアガイダンスを設定し側方滑走時臼歯部離開を十分にとれ臼歯部を保護し顆頭の荷重をコントロールできるような咬合を構成する事の重要性をお話しされた。

第三部は、インディアナ大学補綴科大学院を修了し米国補綴専門医を修得した藤本研修会補綴咬合コースの講師である錦織　淳先生には“咬合理論～デジタルデンティストリー時代に備えて～”を大学院で教育を受けたように種々の文献を提示し、ご自分の症例を通してご講演していただいた。

まずは、下顎運動がどのようにして生じているかをフロリダ大学においてGibbs, Lundeen, Fujimotoらが研究したReplicatorでの下顎による運動分析の動画やJPDに発表した（1981）文献を示され、咬合治療の知識として必要な下顎運動の理解を深める一助になった。

咬合は歯牙接触（動的、静的）後方決定要素・前方決定要素そして神経筋機構が下顎運動を決定し、その口腔内の歯牙咬合面に影響する（Ahlgren,1967）。しかし、無意識の反応（ブラキシズム）、機能異常（ディスファンクション）そして咬合異常機能（パラファンクション）には注意を払わなくてならない（Jablonsk, 1982）。

咬合再構成を行う上で、咬合理論は知っていなければいけない知識であり、McNeillが提唱する咬合の鑑別診断は補綴治療の重要性な指標とし、

1．生理的咬合（機能的に平衡あるいは恒常性が咀嚼系の全組織間の存在する咬合）
2．非生理的咬合（咀嚼系組織が機能における平衡あるいは恒常性が失われている咬合）
3．治療咬合

に分類している。これらの鑑別診断を必要とする患者に関しては咬合と顎関節症咬合由来の問題、顎関節の問題が別々に生じているか、同時に生じているかをしっかりと分類するために、問診および触診などによってスクリーニングする必要がある。また、顎関節症では多因子的TMDは適切な患者管理として主たる原因の治療を優先すべきであるとNIHにおいてのTMJ Conferenceでの意見もある。

そして、咬合安定の条件（有歯顎）

1．適切な咬合面
2．適切な咬合高径
3．適切な最大咬頭嵌合位と中心位での歯牙接触
4．適切なアンテリアガイダンスもしくはグループファンクション
5．均衡側での咬合干渉の欠如
6．咀嚼筋障害の欠如
7．顎関節障害の欠如

を満たすような補綴治療を行う時はフェースボウを精度高くとり、必要なら後方決定要素である顎運動を記録し、咬合関係を確認するためにチェックバイト、テンポラリークラウンでの摩耗面の確認やスタディモデルのハンドリングにより推察していき治療を行っていく。治療咬合で中心位が必要とする場合

1．Occlusal stabilityの条件を満たしていない時
2．欠損症例
3．6分の1顎以上の歯冠形成が必要な時
4．咬合高径を変化させる必要がある時
5．アンテリアガイダンスを変更する時

はドーソンテクニックでの中心位採得を行う。

錦織先生はデジタルデンティストリーの時代を迎えても咬合理論におけるガイドラインに基づいて治療をすることの重要性を述べられ、ラボラトリーの実験ではデジタル印象はアナログ印象に比較してより良い辺縁適合と内面適合を示した（konstantions, 2016）。単冠のケースはデジタル印象とアナログ印象との辺縁適合の明らかな違いはなかった（Panagiotis atsirogiannis,2016）。デジタル印象の正確性は単冠および短いブリッジではアナログ印象と同等なレベルであるが、全顎的な印象になるとアナログ印象の方がデジタル印象と比較して、より良い結果を示しているとの文献を紹介された。

咬合診断で難しい状態ではアナログ印象の方がまだ有利であると考えられるとお話されまた、受講生の先生方からも各先生方に多くの質問をいただき活発なディスカッションとなりました。

この講演会は本来、桑田正博先生を交えての開催予定でございましたが、コロナ禍で止むを得ず会期を延期いたしました。残念ながらこの間に先生はご逝去されてしまいました。

ここに、全世界の歯科界に多大なる貢献と功績を残され、ご尽力された先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

「唾液の機能性の基礎と臨床応用のポイント」／槻木恵一 先生

学術委員　原　めぐみ（18 回生）

令和４年５月22日、槻木恵一先生（神奈川歯科大学副学長）をお招きして、「唾液の機能性の基礎と臨床応用のポイント」というタイトルで学術講演会が開催された。今回は、新型コロナウィルス感染対策として、Web配信にて行われた。講演は３部構成で行われ、唾液の基礎的な話から、歯科での臨床応用についてまで、最新の話題を交えた大変興味深いご講演であった。

第１部は、「唾液・唾液腺の基礎医学」として、唾液腺の解剖学的な話から始まった。唾液腺には３つの大唾液腺の他に無数の小唾液腺があること、小唾液腺には粘膜表面に唾液を分泌し粘膜の保護や湿潤を保つという重要な役割があることなど、唾液腺の特徴について改めて学ぶことができた。

第２部は、「唾液の機能性の向上法（唾液ケア）と歯科での応用」というテーマであった。唾液は質と量が大切であることから、これを“唾液力”として表しているとのこと。唾液の量については、量が減少すると自浄作用が低下し、身体に悪影響を及ぼすこと、唾液の質については、その成分の99％が水分であるが、残りの1％にIgA抗体やラクトフェリンなど免疫に関与する成分等が含まれていること。すなわち、唾液の質と量が高い状態で保たれていることは、身体全体にとっても重要であることを学んだ。

第３部は「唾液の教養学」として、近年注目されているがん早期発見のための唾液検査について、また現在大きな問題となっている新型コロナウィルスに対するIgA抗体の可能性についても聞くことができた。

最後には「唾液から歯科の未来を考える」として、腸と唾液腺の関係についての話があった。全身の健康に対する腸の重要性については近年広く知られているが、唾液力が増加（IgAの増加）することにより、口腔内の健康が保たれ、細菌叢の減少などが起こり、結果として腸の健康度がアップする。さらに今度は唾液腺が刺激され、唾液力が上がるという関連性が起こることを学んだ。腸活、フレイル予防、抗加齢医療などが話題になることが多いが、唾液ケアを通じて、歯科が全身の健康に大きく関わる可能性を感じることができた。

我々歯科医師にとって大変身近な存在である唾液が、まだ大きな可能性を秘めていることを知り、大変興味深いご講演であった。口腔内だけではなく全身の健康向上に関わる力を持つ唾液について、今後の歯科界のためにも、益々研究が進んでいくことを願いたい。

「臨床の疑問に答える治癒の病理 ～最新情報～」／下野正基 先生

学術委員　藤野拓郎（43 回生）

令和４年６月12日、神奈川歯科大学附属横浜研修センター・横浜クリニックにて、東京歯科大学名誉教授 下野正基先生をお招きし、「臨床の疑問に答える治癒の病理～最新情報～」と題し、コロナ禍で同窓学術会史上初のハイブリット学術講演会が行われた。鈴村佑子 副会長の開会挨拶をかわきりに、本講演は開催された。

下野先生は基礎の病理という立場から、臨床における疑問をわかりやすく講演されており、本学術講演も最新著書“決定版 治癒の病理”から多く引用され、午前の部はペリオ、午後の部はエンド、インプラントと３部構成で大変ボリュームある内容であった。ペリオに関しては、AAE/EFP のペリオ・インプラントの新分類2017 のポイント、歯周基本治療の治癒のメカニズム、リグロスを成功させるコツ。エンドに関しては、リバスクラリゼーションの可能性、意図的出血（血餅）の意義とは何か。インプラントに関しては、オッセオインテグレーションとは、異物であるインプラントはなぜ排除されないのか、インプラント周囲骨でもリモデリングは起きているのか詳しく解説していただいた。講演後も質問者の列が続き、明日からの臨床の見る目が変わる講演だった。

「歯医者が患者になった ～私の義歯体験記～」／村岡秀明 先生

学術委員　中尾　伸（49 回生）

令和４年７月２日（土）北海道地区連合会創立50周年記念学術講演会「歯医者が患者になった～私の義歯体験記～」（講師：村岡秀明先生）が開催された。本講演は一昨年度からの企画で、新型コロナウイルスによる影響を受けて延期となり、本年度開催となった。当日は感染予防の観点から、Zoomを用いたWeb配信にて行われ、64名が出席した。

講演では、村岡先生がご自身の研究のため天然歯を抜歯され、部分床義歯から始まり、下顎に総義歯を装着されたご経験を中心にお話しされた。日常臨床において臨床サイドでは、義歯装着体験がない歯科医師が多いため、患者の実際の生活における義歯の維持・安定・異物感などの問題、また食べやすいものや食べにくいものを詳細に把握することは難しい。

村岡先生は、歯科医師－義歯装着患者の両方の観点から、それらの体験をどのように義歯設計や調整に活かしていくのかについて、ポイントを挙げながら解説された。紙面の関係上、そのすべてを記載することができないが、特に印象的であった内容は、

① 義歯の違和感や設計との関連性（辺縁の長さ・形態など）
② 機能時における痛みの原因とその把握・対応について

であり、義歯臨床を含めた経験年数が浅い私にとっては、学ぶことが多かった。

質疑応答では、受講生の先生から義歯装着直後に患者が「しゃべりにくいので短くor薄くしてほしい」と訴えた場合、どのように対応すれば良いのかについて質問があった。義歯装着に慣れるまではある程度の期間が必要であるため、痛みがない場合はまず実際に使ってみてもらうことで、状態を確認していくことが必要であると、村岡先生よりご回答をいただいた。村岡先生の義歯装着の体験は非常にインパクトが強く、普段はなかなか聞くことのできない患者の本音や、義歯臨床の勘所についてご解説いただいた。コロナ禍で実際に村岡先生と直接お会いすることは叶わなかったが、拝聴できて非常に光栄であった。本講演で学んだことを活かせるように、今後も研鑽を積んでいきたい。

「天然歯の保存にこだわる」／渥美克幸 先生

学術協力委員　渡邉　亮一郎（43 回生）

令和４年９月18日、神奈川歯科大学同窓会学術講演会は新型コロナウィルス感染拡大の状況を鑑みて、オンラインによる開催となりました。

『天然歯の保存にこだわる』と題し、埼玉県にてご開業の渥美克幸先生にご講演いただきましたが、オンラインということもあり、渥美先生にはクリニックよりご講演いただきました。大舘　満会長の開会挨拶をかわきりに、途中お昼休みをはさみ、約６時間半に及びました。

渥美先生には長時間にわたりご講演いただき、心より感謝申し上げます。

渥美先生は、口腔内全体を包括的に診査診断され、予知性の高い治療を心がけていらっしゃるとともに、執筆や講演活動でも多岐にわたりご活躍されております。今回の講演でも、診査診断等の重要性から根管治療、根管充填、支台築造とコンセプトに基づいた治療や、顕微鏡を応用した「保存にこだわった」歯科治療について詳しくご教授してくださいました。

また、ファイバーポストによる支台築造では接着操作等の臨床例などを挙げ、実際に起きた失敗例やそのリスク回避策を提示されました。

受講生からも多くの質疑応答があり、また、わかりやすく解説していただいたと思います。明日からの臨床に応用できる内容だったのではないかと感じました。

末尾になりましたが、今回ご講演いただいた渥美先生、ご協力いただいた事務局、学術委員の先生方に心より感謝申し上げます。

唾液に注目する時代が来た

神奈川歯科大学環境病理学　教授
大学院唾液科学研究所　所長
特定非営利活動法人日本唾液ケア研究会　理事長
槻木恵一（24 回生）

はじめに

いつも大変お世話になっております。神奈川歯科大学第24回卒業の槻木恵一です。私は、学部卒業後に渡邉是久先生の病理学に学び、一貫して病理学を基盤に教育研究活動を行ってきました。しかし、私の病理学は、やや異端です。ほとんどの病理学者は疾患病理学を専攻しますが、私は環境病理学を追及しています。この環境病理学は、疾患そのものを研究するのではなく、疾患に至る原因となる環境因子に注目し、環境要因がどのようになれば疾患が発生するのか、あるいは疾患を予防できるのかを研究しています。すなわち、口腔の環境要因の最上位にある存在である唾液の研究は、まさに環境病理学そのものなのです。

唾液に注目する時代が来た

唾液は、これまで最も専門とする歯科においてさえ、存在感のないありふれた脇役でした。それが、新型コロナウイルス感染症の蔓延は、唾液を解析することで病気が分かるということから唾液検査の存在は一気に躍り出たのです。また、マスク生活の中で唾液量の減少も知られるようになり、唾液に注目した口腔の健康にも光が当たり始めました。そして、国民皆歯科健診に唾液検査がスクリーニングとして入る可能性がうわさされ、歯科においても見過ごすわけにはいかない存在になりつつあります。まさに、唾液は歯科の専門としてしっかり発信をしなければならない存在なのです。

唾液の研究は遅れている

唾液と唾液腺には系統的な学問体系がありません。唾液腺は独立した臓器であり、唾液腺学は存在していい筈ですが、残念ながら歯学部にも、世界を見渡しても存在しないのです。唾液腺の研究は、マウスの顎下腺から上皮成長因子、神経栄養因子の発見でノーベル賞を受賞した1980年代に注目されるのですが、そのブームはすぐに去り、唾液腺の研究は、様々な分野で細々と散発的に行われるというのが現在までの現状です。唾液の研究は、さらに少なくなります。この状況は、国民の健康を守るためにも問題ではないかと長く考えてきました。

神奈川歯科大学での取り組み

神奈川歯科大学には、面白い研究のシーズが沢山あります。その中でも、唾液に関する研究が進んでいる大学と自負しています。全身管理歯科学講座障害者歯科学分野の小松知子教授はダウン症の唾液研究、総合歯学教育学講座教養教育学分野の板宮朋基教授は唾液腺の３Ｄ画像と教育への導入、歯学部教育企画部の星憲幸教授は唾液成分の網羅的解析で有名であり、猿田樹理教授は唾液腺産生因子の全身への影響で世界で初めて脳に唾液成分が影響することを論文にしました。さらに、う蝕における唾液検査では分子生物学講座口腔生化学分野の半田慶介教授が取り組んでいます。また、大学院には法人のご支援を頂き唾液科学研究所も設立され唾液研究の推進が強力に展開されています。

教育面では、教育企画部を主導に唾液腺を系統的に学ぶことができる唾液腺学の講義が開講されました。これは、世界に先駆けた教育内容であり、神奈川歯科大学が大きくリードしているといっても過言ではありません。唾液について造詣の深い歯科医師の養成が始っているのです。

そして、社会貢献部分では、神奈川歯科大学出身者を母体とした特定非営利活動法人日本唾液ケア研究会が2022年４月に設立されました。

特定非営利活動法人日本唾液ケア研究会について

口腔において歯は、主役と言える存在ですし、歯を見るのが歯科医師の宿命です。しかし、歯は独立した存在ではなく、口腔という臓器において機能するには唾液が必要です。歯は約100ミクロンの唾液フィルムに包まれ存在しており、唾液は重要なパートナーなのです。唾液が、まさに口腔を支える中心人物であり、唾液に関心を持ち唾液を考えることが口腔の健康を支え、そしてその先に全身の健康へとつながるのです。日本唾液ケア研究会は、これまでの口腔ケアという事だけでなく、いま、唾液に注目した口腔の健康維持のためのケアを唾液ケアとして普及を始めています。さらに、唾液学・唾液腺学の学問体系の構築を多くの仲間と作り上げる団体として生まれました。今後、唾液

検査のエキスパートを養成する認定制度も準備する予定です。

いい歯の日の後は「いい唾液の日」

特定非営利活動法人日本唾液ケア研究会(理事長：槻木 恵一：神奈川歯科大学教授)は、11月28日を「いい唾液の日」に日本記念日制定協会に申請し厳正な審査の後に2021年８月より記念日として認定されています。

「いい唾液の日」は、日付の11と28で「いい（11）つば（28)」と読む語呂合わせから決定しており、この制定をきっかけに多くの人に「唾液」の健康効果を周知するとともに、全身の健康増進を心がけてもらうことや、唾液学の推進を目的としています。

2022年「いい唾液の日」では、唾液に関連した研究を行う国民の健康を支える研究者３名と１グループ（北海道大学歯学部･東北大学歯学部･岡山大学歯学部･長崎大学歯学部の研究者）と唾液医療を推進する栄養士１名（本学卒業生新田成人先生の開業する新田歯科クリニック）の功績を称えて表彰を行いました。

また、いい唾液の日のイベントに公益社団法人神奈川県歯科医師会副会長鈴木雅彦先生による挨拶と祝辞が寄せられ、歯科医療における唾液の重要性をお話しされ、多くの聴衆に感銘を与えていただきました。

11月は8日がいい歯の日で、28日がいい唾液の日であり、11月を口腔の健康月間にしていく運動を展開していきます。是非とも、多くの同窓の先生方の地域でも口腔の健康月間を推進していただけると幸いです。

記念日登録証

日本唾液ケア研究会 殿

名称　いい唾液の日

日付　11月28日

上記の記念日を正式登録する

２０２１年８月６日

一般社団法人 日本記念日協会

代表理事 加瀬清志

日本唾液ケア研究会学術集会

第１回日本唾液ケア研究会学術集会は、11月27日に開催し、現地参加約120名以上、Web参加70名と多くの方の参加を得て盛況に終わりました（https://thnty.hp.peraichi.com)。特に大手企業が多数参加している点は、その将来性への期待が大きいことを示しています。そして何より、必要とされていることを肌で感じることができ、次回への弾みとなりました。是非とも、同窓の皆様には、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

新田歯科クリニック管理栄養士の表彰

令和４年７月から12月までの会務報告

月	日	曜	行　　事	出席者・講師
令和 ４年 ７月	2	土	神奈川歯科大学同窓会学術講演会（Web 講演会） － 北海道地区連合会共催学術講演会－ 「歯医者が患者になった ～私の義歯患者体験記」 北海道地区連合会総会、創立 50 周年記念学術講演会	講師：村岡秀明先生（３回生） 大舘会長、山中常務理事、前畑理事
	15	金	令和４年度第４回情報処理部 Zoom 練習会	
	16	土	第２回理事会（Web 会議）	
	17	日	新潟大学歯学部同窓会創立 50 周年記念式典・祝賀会	大舘会長
	25	月	第４回学術委員会（Web 会議）	
８月	20	土	大阪歯科大学同窓会設立 100 周年記念式典・祝賀会	大舘会長
			大阪府支部学術講演会	講師：半田慶介教授（30 回生）
	22	月	第５回学術委員会（Web 会議）	
	26	金	令和４年度第１回予算決算特別委員会（在宅審議）	
９月	3	土	埼玉県支部総会・学術講演会（Web 開催）	桂副会長、講師：槻木恵一教授（24 回生）
	4	日	東北地区連合会総会	大舘会長
	5	月	第６回学術委員会（Web 会議）	
	10	土	四国地区連合会総会・学術講演会	講師：児玉利朗教授（14 回生）
	16	金	令和４年度第５回情報処理部 Zoom 練習会	
	17	土	第３回常務連絡会（Web 会議）	
	18	日	神奈川歯科大学同窓会学術講演会（Web 講演会） － Back to the basic －「天然歯の保存にこだわる」	講師：渥美克幸先生
	28	水	山梨県支部学術講演会（Web 講演会）	講師：降矢和樹先生（37 回生）
	30	金	私立歯科大学歯学部同窓・校友会連絡協議会 「12 校会議」（Web 会議）	大舘会長、秋本専務理事
10月	1	土	群馬県支部学術講演会	講師：河奈裕正教授
	14	金	情報処理部第６回 Zoom 練習会	
	15	土	第３回理事会（Web 会議）	
	17	月	第７回学術委員会（Web 会議）	
	22	土	九州地区連合会総会・支部長・代議員会 鹿児島県支部学術講演会	来賓：鹿島理事長 大舘会長、平良副会長、岩本監事 講師：児玉利朗教授（14 回生）
11月	4	金	神奈川歯科大学附属横浜研修センター・横浜クリニック開設20周年記念懇親会	大舘会長
	5	土	第 69 回全国歯科大学同窓・校友会懇話会	大舘会長、浅井副会長
	6	日	神奈川歯科大学同窓会学術講習会　ハンズオンセミナー － Back to the basic －若手歯科医師のためのブタ実習による 「歯周病・インプラント治療のティッシュマネージメントの実際」	講師：児玉利朗先生（14 回生）
	13	日	東海地区連合会総会・静岡県支部学術講演会	大舘会長、講師：河奈裕正教授
	14	月	第８回学術委員会（Web 会議）	
	18	金	情報処理部第７回 Zoom 練習会	
	19	土	第２回監事会	
			第４回理事会（Web 会議）	
			第４回広報委員会（Web 会議）	
12月	4	日	第２回予算決算特別委員会（在宅審議）	
			令和４年度第１回表彰選考委員会（在宅審議）	
	10	土	第５回広報委員会（Web 会議）	
	19	月	第９回学術委員会（Web 会議）	

被災された同窓生への災害支援に関する経過報告

第63回代議員会（平成14年7月13日）にて福祉共済の災害等への見舞金が廃止となりました。その後は、災害により被災された会員の先生がいらした場合には支援金を募集し対応しておりました。
災害見舞金は早急な対応が要求されることから、平成29年度に災害見舞金制度を立ち上げて、見舞金の対象となる災害の基準を定め、理事会承認で見舞金の対応をしております。

災害発生日	災害見舞金支払日	支払内容
2022年3月16日 福島県沖地震	2022年4月12日	福島県支部の13名の会員に災害見舞金170,000円をお支払い。
	2022年8月4日他	特に被害の大きかった相馬市をはじめ5名の会員から罹災証明の提出があり。支援金募集を行ったところ530,000円の振込があり、ここに災害見舞金からの120,000円を加算して、合計650,000円をお支払い。 （内訳） ・診療室（相馬市）・自宅（相馬郡新地町）がともに準半壊の判定を受けた会員：1名に250,000円。 ・診療室兼自宅（相馬市・矢吹町）が準半壊に至らないとの判定を受けた会員：2名にそれぞれ120,000円。 ・診療室兼自宅（福島市・郡山市）が一部損壊との判定を受けた会員：2名にそれぞれ80,000円。
2022年9月23日 台風15号	2022年10月12日	静岡県支部の1名の会員に災害見舞金10,000円をお支払い。 （内訳） ・診療室（静岡市清水区）が断水により一時診療不可。

令和4年度災害見舞金予算額400,000円に対し、300,000円を被災された会員にお支払いしております。（令和4年10月末日現在）

明日の口腔医療に貢献する歯科用機器・サプライ・書籍の総合商社

今日もTRADスピリットで。

大正12年の創業以来、田中歯科器械店は、
伝統を守りながらも常に環境の変化に対応し、
革新し続けることで発展してまいりました。
そのスピリットを表現するシンボルがTRAD。
Traditionを意味するだけでなく、
Tanaka Realize Advanced Dentalという強い意志を表しています。
田中歯科器械店はこれからもTRADスピリットで、
国民の口腔医療に貢献してまいります。

TRAD
TANAKA REALIZE ADVANCED DENTAL
株式会社 田中歯科器械店

■ 本　社
〒102-8139　東京都千代田区富士見1-3-8
Tel 03-3230-2386（代）　Fax 0120-418-550
■ 神奈川支店
〒238-0004　神奈川県横須賀市小川町26-3
Tel 046-826-1640（代）　Fax 0120-182-999
■ 新潟支店
〒951-8151　新潟県新潟市中央区浜浦町1-41
Tel 025-267-1080（代）　Fax 0120-438-020
■ 日本歯科大学営業部附属病院売店
〒102-0071　東京都千代田区富士見2-3-16
日本歯科大学附属病院内
Tel 03-3263-9525（代）　Fax 03-3263-9553
■ 日本歯科大学営業部生命歯学部売店
〒102-0071　東京都千代田区富士見1-9-20
日本歯科大学生命歯学部内
Tel 03-3265-8977（代）　Fax 03-3265-0570
■ 日本歯科大学新潟生命歯学部売店
〒951-8580　新潟県新潟市中央区浜浦町1-8
日本歯科大学新潟生命歯学部内
Tel 025-265-0850（代）　Fax 025-265-0859
■ 神奈川歯科大学営業所
〒238-0003　神奈川県横須賀市稲岡町82
神奈川歯科大学歯学部内
Tel 046-826-1441（代）　Fax 046-826-1465

http://www.tanakadental.co.jp

創立50周年記念学術講演会
「歯医者が患者になった ～私の義歯患者体験記～」

原田尚也（９回生・北海道地区連合会）

2022年７月２日（土）本部同窓会学術部と北海道地区連合会の共催による北海道地区連合会創立50周年記念学術講演会「歯医者が患者になった ～私の義歯体験記～」（講師：村岡秀明先生・３回生）が開催された。本講演は2020年度からの企画であったが新型コロナウイルスにより延期が繰り返されようやくの開催。当日は感染予防のためZoomを用いたWeb配信にて行われた。本部学術担当理事 前畑　香先生司会のもと、大舘　満会長による開会挨拶の後、座長である当支部会長 中村順三先生による村岡秀明先生の紹介があり開演となった。以下、講演内容を村岡先生の一人称で記載する。

・義歯は自分で実体験するのが近道。2014年１月18日に自分の天然歯を抜歯して義歯を装着することを思い立った。２年毎くらいに抜歯しながら片側遊離端義歯に始まり徐々に大きな義歯へ。やはり知りたいのは下顎総義歯。2022年１月19日、思いたってから８年後の今年、下顎はついに総義歯に！最初は踊ってだめだった。しかし総義歯には「動かない場所」や「食べられる場所」があるからそこを見つけ、食物は「小さくして」食べるように工夫した。ポリグリップを少し使うなどして８日目に噛めるようになった。

　その後、抜歯窩が痛くなったり、頬張ると外れることに気づいたり、リラインは光重合タイプを使うと安定した物性が得られるなど様々な体験を重ねながら、２か月たったころやっと総義歯が安定するようになった。最終的に、抜歯後３か月で下顎総義歯の本印象を採るに至った。以下、気付いたことを箇条書きに述べる。

・「クラスプは外れるのを防ぐためのもの。下顎の義歯は一本でも歯を残した方が良い」と父も言っていた。
・総義歯はスパゲティなど口をすぼめて食べることが難しい。洋食よりも箸で奥に入れることができる和食の方が食べやすい。
・入れ歯は落として割れることもあるので予備があると便利。
・コピーデンチャー、完成義歯ともにレトロモラーパッドに適合する形を作ることが大事。
・薬を飲むときは頬部に溜まりやすいので、入れ歯を外して飲むこと。
・歯を失うのは「ちから」だと感じている。
・義歯は入れて寝ること。高齢者が夜中トイレに行く時など、義歯を外したまま歩き出すと体幹固定ができないので転びやすい（以上）。

　あっという間に２時間が経過し、質疑応答の時間。多くのご質問に対し的確なご回答や白熱したディスカッションもあり、興奮も冷めやらぬまま講演終了の時間を迎え、本部学術常務理事 山中秀起先生による閉会の辞で閉会となった。

　コロナ禍で対面の講演会は叶わなかったが、３年間待ったおかげで先生ご本人が目指していた待望の総義歯になり、その赤裸々な体験談を拝聴でき、他ではなかなか学べないような実りの多い貴重な講演であった。村岡秀明先生、本当にありがとうございました。

　最後に、村岡先生の指と爪がとてもキレイだったことが印象的でした。

同窓便り

令和4年度東北地区連合会総会開催される

岩渕　壯之助（10 回生・岩手県支部）

令和４年９月４日（日）岩手県盛岡市ホテルニューウィングにおいて開催されました。新型コロナのパンデミックのため東北地区連合会は３年ぶりの開催となりました。例年と異なり参加人数を制限し、各県支部長１名と本部会長の参加となりました。当番県の岩手からは副会長２名、専務理事１名がお手伝いする形式でした。

大舘　満同窓会会長のご挨拶の中でコロナ禍における会務運営の現状、コロナ禍における「口腔ケア」の政府の対応について興味深いお話があり、今後の歯科界の立ち位置を暗示していました。

協議題は次期開催県について話し合われ宮城県に決定しました。

また各県からの現状報告および事前協議題についての説明が行われ閉会となりました。

大舘　満同窓会会長始め各地区支部長の皆様、朝早くからお疲れ様でした。

【出席者】

本　部	大舘　満	7回生	
青森県支部長	工藤　眞裕	13回生	
秋田県支部長	村岡　丈夫	3回生	欠席
宮城県支部長	五十嵐　隆	12回生	
山形県支部長	加藤　克彦	11回生	
福島県支部長	桑名　利直	18回生	
岩手県支部長	栃内　明啓	6回生	
	小笠原宰記	15回生	
	高橋　晃彦	17回生	

事前質問と要望（順不同）

福島：「これからもコロナは続くと思われます。今後の活動について協議していただきたい」

青森：「在校生との交流を行っている県がありましたら、報告をお願いしたい」

山形：「秋田県の代表の方が御出席であれば、その後の進展について」「コロナ禍で多数の集会や懇親は難しいが、会員の多い県（青森県、岩手県、宮城県、福島県）ではどのような形でつながりを保っておられるか？」

「卒後、同窓会への入会が少ないのは全国的な傾向らしいのだそうですが、その原因についてどうお考えになっておられるのか」

「卒後に不安なのは臨床が出来るかであると思う。それに対して、同窓会としてもっと臨床に則した研修を企画してもいいのではと思う。コロナ禍では難しいが、ハンズオン研修会又コロナ禍でもWebを用いた研修会等、個人的には保険導入された口腔機能低下症のリハビリについて教えてほしい。」

同窓便り

第18回 四国地区連合会「総会・学術講演会」開催

服部啓吾（19回生・香川県支部）

令和４年９月10日（土）JRホテルクレメント高松において第18回神奈川歯科大学同窓会四国地区連合会総会・学術講演会が開催されました。本来は昨年開催予定でしたが新型コロナウイルス感染症により１年遅れての開催となりました。

当日は四国４県より新型コロナ感染の影響もあり約30名の同窓会員の参加となりました。今までと開催内容を変更し、午後３時より四国地区連合会総会が開催されました。会場内には新調された同窓会旗のお披露目があり、総会に於いては次期開催についての協議等があり、最後に「入学について現状と入試説明」についてビデオレターにて報告がおこなわれました。

学術講演では『歯周病治療におけるティッシュマネージメント』と題し、神奈川歯科大学臨床科学系歯科インプラント学講座 高度先進インプラント・歯周病学分野教授 児玉利朗先生より講演がおこなわれました。

写真撮影後、引き続き同ホテルに於いて公益社団法人香川県歯科医師会 豊嶋健治会長にお越し頂き懇親会が開始されました。こちらも感染対策を考慮し余興はありませんでした。

次回の令和６年開催当番県の徳島県支部の中西　通支部長よりご挨拶があり、校歌斉唱（テープのみ）にて無事行事を終了しました。

２次会は同ホテルラウンジバーにて時を忘れて話に夢中になっていました。今回はコロナ感染対策として総会・学術は１テーブルに１名、懇親会は１テーブル４名までとし、隣とはパーテーションが設置されました。できるだけ人混みを避けてホテル内にて計画しましたが、街中のネオンを見ないと気が済まない方々にて急遽３次会が開催されました。

３次会が終了すると言うことは小腹が減ってくる時間です。「さぬき」といえばうどん県。早速皆さん好みのうどん屋に入って行かれました。ご参加頂きました同窓会員の先生方本当にお疲れ様でした。次回は徳島でお目にかかりましょう。

同窓便り

令和４年度「定時総会」

桑名利直（18 回生・福島県支部支部長）

まず最初に３月におきました相馬沖地震でのお見舞い金、ありがとうございました。特に被害の大きかった相馬の先生方に過分なお心使いをいただき大変感謝しております。この場を借りまして御礼を申し上げます。

さて、６月としては異例の猛暑の下、コロナ禍も落ち着きを見せ始め会員も全員ワクチンを３回接種済みということもあり、新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で、令和４年６月25日（土）午後３時30分よりホテルプリシード郡山「芙蓉の間」で会員16人の出席をもって令和４年度「定時総会」が開催されました。

今回の総会では、コロナのために数年間同窓会活動をおこなえず、使われなかった会費の運用について議決された他、会員の名称について、75歳を迎えた会員が終身会員となり、混乱を避けるために同窓会を退会した会員を「会友」と名称を変更することが議決されました。

最後に他大学と比較し会費が高いという意見が上がり、今後の支部会費の運用をシミュレーションして協議されました。その後、社会保険研修会が開催されました。令和４年度の診療報酬改定から間もないこともあり、実践的なケースを例に取り上げて明日からの診療に直ぐに役立つ非常に丁寧でわかりやすい解説があり、活発な質疑応答が交わされました。その後、集合写真の撮影後、感染に注意を払いながら粛々と懇親会が開催されて、午後７時45分に閉会となりました。

令和4年度 神奈川歯科大学埼玉県支部同窓会（三笠会）総会・学術講演会

北川　純（16 回生・埼玉県支部）

令和４年９月３日に神奈川歯科大学埼玉県支部同窓会（三笠会）総会ならびに学術講演会が開催されました。昨年に続いて今回もZoomによるWebでの開催となりました。

総会は髙橋　朗埼玉県支部同窓会会長の下、平澤克也専務理事の司会により諸報告の後、選任された渋谷孝順先生の議長の下に議事が行われ、令和３年度事業報告・決算報告、令和４年度事業計画・予算案ほかについて会員の承認が得られて終了となりました。

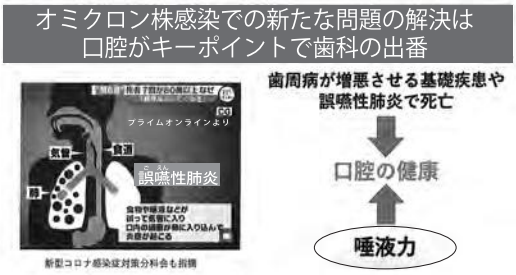
総会に引き続いて学術講演会に移行しました。神奈川歯科大学病理・組織形態学講座環境病理学分野／分子口腔組織発生学分野教授、槻木恵一先生を招聘講師として「唾液を見直す時が来た、唾液機能の機能性的意義の再考と健康効果の向上法について」という演題にて講演をしていただきました。NPO法人日本唾液ケア研究会の理事長もされておられる槻木恵一教授は、唾液の分野にてタイムリーな情報提供されておられることからマスメディアから取り上げられ、多数の健康番組への出演もあるという時の人という認識であります。プレバイオティクスの一種であるフラクトオリゴ糖の継続摂取による唾液中IgAの分泌量増加と共にそのメカニズムとして腸管内で短鎖脂肪酸が重要な役割を果たすことを明らかにし「腸―唾液腺相関」を発見され、関連著書に「がん患者さんの口腔ケアを始めましょう」（学研書院・共著）ほかがあります。

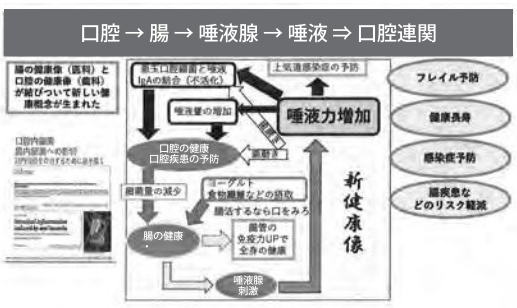
槻木恵一教授は現在の母校や横須賀の街について簡単に紹介された後、唾液の意義と国民歯科健診、新型コロナウィルスと唾液、唾液の多機能性・量と唾液ケア、唾液の多機能性・質と唾液ケア、唾液検査の勧めの５項目のコンテンツについて講演を進めました。特にタイムリーな話題として、新型コロナウィルスと唾液については、マスクを外す時に備えて、歯磨き、舌苔除去、洗口液の使用が唾液中のウィルス量を減少させるので有効であること、高齢者の歯周病予防はコロナ重症化対策に値すること、唾液中には新型コロナウィルスから防御する因子が存在するという口腔がキーポイントという生体要因に注目されていること、そのためには唾液の免疫力IgAを高める口腔生物学的視点が大切であることなどが特に印象に残りました。

また、唾液量を高める因子については、水分補給、動かす、食べる、刺激するが挙げられ、唾液IgAの減少する外的要因には、ストレス、脂質の多い食事、強い運動、過度の飲酒があり、内的要因には加齢や病気が挙げられるということです。唾液IgA（免疫力）を高めるケアのポイントとしては、適度な運動、口腔清掃、腸活、ビタミンA・B1・B2の摂取が大切とのことです。

唾液に関することは、唾液検査を除き歯科の収入には殆んど影響を与えるものではありませんが、患者さんへの説明や指導、動機付けにとても有用性が高い分野であると思いました。また、唾液による緩衝作用を期待して食後30分程度はブラッシングを避けた方が良いという報告がかつて話題となりましたが、現在では各学会にて否定されているということです。

この先、学術講演や総会ならびにその準備の役員会については、極力Webによる開催をベースに行うことにより、遠方から参加される先生方の負担軽減にもなり参加者も増えるのではという髙橋　朗埼玉県支部同窓会会長の締めの挨拶にて終了致しました。学術講演会は他支部から参加の人数も含めて27人の参加者でした。





定時総会ならびに記念講演会の開催

高野孝治（26 回生・千葉県支部・広報担当理事）

令和４年５月29日（日）午後１時30分より、神奈川歯科大学千葉県支部同窓会に於ける『令和４年度 定時総会ならびに記念講演会』が市川市歯科医師会館を会場として開催されました。

当会では新型コロナウイルス感染拡大に伴い、昨年度よりオンラインを用いたハイブリッド形式にて開催をしておりますが、今年度も同様の開催となりました。

定時総会は出席者21名（オンライン含む）、委任状36名の提出で成立となり、千葉県出身の神奈川歯科大学法医学講座歯科法医学分野教授、山田良広先生を来賓としてお迎えし、長田一宏会長より挨拶の後、議長の選出、議事録署名人が選出されました。

そして、次の事項が報告されました。

（１）令和３年度会務報告　（２）本部代議員会報告
（３）監査報告　（４）新入会員紹介

その後、議事について討議され、第１号議案から第４号議案まですべて可決されました。

・第１号議案　令和３年度歳入歳出決算について承認を求むる件
・第２号議案　令和４年度事業計画案について承認を求むる件
・第３号議案　令和４年度歳入歳出予算案について承認を求むる件
・第４号議案　三辺正人前教授の会員資格について承認を求むる件
（会則第５条により、本会に対し功労があり、理事会で推薦され名誉会員にすること）

定時総会終了後、午後２時30分より記念講演として、講師に三辺正人先生（12回生）をお招きし、『歯周病と全身の関係－歯周病関連検査の必要性と有用性－』と題して、歯周病と主に糖尿病関連疾患との深い関係、ならびにそれを診療に活かすための歯周病検査、そして医科歯科連携診療の重要性についてご講演いただきました。

尚、三辺正人先生は昨年７月に神奈川歯科大学歯周病学分野教授を退任され、退任記念講演を兼ねての開催となりました。

【講演要旨】

①全身の健康指標としての歯周病の位置づけ

全身疾患の発症リスクと歯周病の関係は非常に密接な関係にあり、口腔内から全身疾患の初期症状を発見し、発病して身体が重篤な状態になる前に早期治療することが必要である。また、歯周炎の重症化と無歯顎の方は、生命予後に有意に関与する。

②歯周病と全身の関連－特に糖尿病関連－

歯周病と糖尿病は相互関係にあるといわれる。全身コントロール不良の糖尿病が歯周炎の重症化を招き、歯周治療により糖尿病合併症リスクの減少ができるからである。

歯周病患者の歯周病細菌（ジンジバリス菌）に対する検査、血清抗体化検査、血管プラーク検査は、全身の影響をみるのに有用である。また、医科・歯科による食事栄養指導支援が歯周病を含む生活習慣病の治療に有効である。

③歯周病リスク検査と歯周医学検査

歯周病のステージ、グレード分類の把握は歯周病治療に重要である。また歯周病と生活習慣病リスク検査判定は歯周病予防に有効である。歯周病ケアによる糖尿病リスク改善効果には、咀嚼改善（噛む効用）・炎症、感染コントロール・生活食習慣コントロール（正しい歯磨き習慣）・社会経済、心理学的コントロールがある。

④医歯連携診療の重要性

医科歯科連携を高めるために、糖尿病関連歯周炎の概念を広げる必要がある。また、医科歯科連携は、疾患の早期発見と予防（先制医療）に重要な役割を果たし、両者を統合する健康情報共有システムの開発と実装が必要である。

同窓便り

夏期学術講演会

大塚　卓（20 回生・大阪府支部支部長）

コロナ禍、同窓会活動もままならない状況が２年以上続きましたが、この度、令和４年８月20日、難波イビススタイルズホテルで緊急事態宣言ではなかったものの、毎日全国20万人を超える感染者数の中、新型コロナウィルス感染防止のためマスク着用、会場にて検温、消毒用アルコールを準備して神奈川歯科大学同窓会大阪府支部､夏期学術講演会が開催されました。講師には神奈川歯科大学分子生物学講座口腔生化学分野教授 半田慶介先生をお迎えいたしました。

演題は「次世代の骨再生技術の開発と実用化」というテーマで顎堤がない無歯顎の患者さんや抜歯窩の早期治癒、インプラントをするための骨再生などなど一生美味しく食事を摂ることができるというワクワクするような講演内容でした。

以前は夏期現役OB交流会と称しましたが、現役学生が何十年も参加しておらず、OBとの交流会ではないので、夏期学術講演会へと名称が変わりました。しかし、今年は学生１名に参加していただき、再び夏期現役OB交流会となりました。本当にうれしい限りです。

卒業して大阪に帰ってこられた際には、是非大阪府同窓会に入会していただきたく思っております。

同窓の皆様に神奈川歯科大学が「心のふるさと」であり続けるよう皆様のご協力をいただきながら共に進んで参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

大分県支部　学術講演会

藤原真一（21 回生・大分県支部）

令和４年６月18日（土）17時から、神奈川歯科大学卒業生である二人の先生を講師に迎え、大分市中心部のホルトホール410会議室にて学術講演会が開催されました。

講演会に先立って大分県支部の総会が行われ、会務報告、会計報告、災害見舞金制度の見直しや、同窓会未加入の会員が増えて半数になったという報告がありました。

演題：保険診療・保険請求について
講師：荒金　伸次 先生
（大分県歯科医師会社会保険担当 常務理事）
小原　正嗣 先生
（大分県国民健康保険団体連合会 レセプト審査員）

【講演内容】
①荒金伸次先生：令和４年度診療報酬改定の説明並び今回の改定の要点について
②小原正嗣先生：大分県のレセプト審査の実情
③荒金伸次先生：事前に集めた会員からの保険診療に関する質問に対する回答

以上の内容で約２時間、講演して頂きました。お二人とも青本の隅から隅まで熟知されており、実務で大活躍されている先生方ですので、講演は実に聞きごたえのある充実した内容でした。

前回の学術講演会が令和２年の２月、コロナが流行し始めた頃で、それから約２年半、ようやく今回、学術講演会を開催することができました。毎回学術講演会の後は懇親会を行うことが恒例でしたが、今回はありませんでした。

各県の支部の皆様も、学術講演会やその他の集会について、コロナ禍で予定が組みづらく、なかなか大変な世の中が続いていますが、ようやく出口が見えたような気もしますので、お互いこれからも頑張ってまいりましょう。

お知らせ

新規・乙種（1）会員の届出

甲種正会員の配偶者あるいは直系親族（甲種正会員１名につき乙種正会員は１名まで）に該当する方が届けを出すことで乙種での入会または乙種への会員種別変更が可能となります。

〈ご希望、お問い合わせは同窓会事務局まで〉

新入会者

松井　徳宏	（43回生・乙）	神奈川県支部
山中　　優	（46回生・甲）	神奈川県支部

再入会者

齋藤　正浩	（41回生・甲）	栃木県支部
渡邉亮一郎	（43回生・甲）	東京都支部
髙橋　昌宏	（35回生・甲）	神奈川県支部

訃　報

『特別会員』

伊藤　春生（神奈川歯科大学名誉教授・元 薬理学 教授）
2022.01.27　ご逝去

廣重　壽子（元 神奈川歯科大学 自然科学 教授）
2022.10.20　ご逝去

『正会員』

石野　克己	（新潟県支部19回生）	2022.07.20	ご逝去
伊藤　幸夫	（茨城県支部12回生）	2022.07.30	ご逝去
岡田　公一	（岩手県支部　8回生）	2022.08.12	ご逝去
大柳　　寛	（東京都支部　8回生）	2022.09.17	ご逝去
中澤　　隆	（長野県支部　7回生）	2022.10.05	ご逝去
新行内芳和	（千葉県支部13回生）	2022.10.11	ご逝去
岩谷　和夫	（福島県支部　4回生）	2022.11.01	ご逝去
飯田　英作	（神奈川県支部　3回生）	2022.11.14	ご逝去
橋本　浩一	（大阪府支部26回生）	2022.11.23	ご逝去
山崎　昌彦	（東京都支部13回生）	2022.12.05	ご逝去
井上　　明	（群馬県支部　5回生）	2022.12.17	ご逝去

《編集後記》

137号会報に多数の原稿寄稿を賜り大いに感謝申し上げます。
今回号は学術的な投稿が多く掲載されています。
各支部会、支部連合会での総会および専門分野で研究活躍されている同窓生を講師に迎えての学術講演会の様子が目に浮かび、母校愛が伝わってきます。
次回号では郷土自慢料理、旅の紀行、或は、神歯大学会における研究の誌上発表等々をお寄せいただくと幸いです。

編集委員：加来めぐみ（9回生）　金子宣由（19回生）　濵野奈穂（30回生）　市田佳子（33回生）／広報担当常務理事　川端啓義（12回生）／アドバイザー　髙橋　朗（12回生）

神奈川歯科大学同窓会会報　137号

発　行：神奈川歯科大学同窓会
〒238-8580　横須賀市稲岡町82
TEL：046-825-0524　FAX：046-823-0510
URL:https://inaoka82.com/　e-mail:ob-jimu@kdu.ac.jp

発行人：大舘　満

発行日：2023年１月20日

印　刷：一世印刷株式会社
〒161-8558　東京都新宿区下落合2-6-22
TEL：03-3952-5651

お知らせ

新規・乙種（1）会員の届出

甲種正会員の配偶者あるいは直系親族（甲種正会員１名につき乙種正会員は１名まで）に該当する方が届けを出すことで乙種での入会または乙種への会員種別変更が可能となります。

〈ご希望、お問い合わせは同窓会事務局まで〉

新入会者

松井　徳宏	（43回生・乙）	神奈川県支部
山中　　優	（46回生・甲）	神奈川県支部

再入会者

齋藤　正浩	（41回生・甲）	栃木県支部
渡邉亮一郎	（43回生・甲）	東京都支部
髙橋　昌宏	（35回生・甲）	神奈川県支部

訃　報

『特別会員』

伊藤　春生（神奈川歯科大学名誉教授・元 薬理学 教授）
2022.01.27　ご逝去

廣重　壽子（元 神奈川歯科大学 自然科学 教授）
2022.10.20　ご逝去

『正会員』

石野　克己	（新潟県支部19回生）	2022.07.20	ご逝去
伊藤　幸夫	（茨城県支部12回生）	2022.07.30	ご逝去
岡田　公一	（岩手県支部　8回生）	2022.08.12	ご逝去
大柳　　寛	（東京都支部　8回生）	2022.09.17	ご逝去
中澤　　隆	（長野県支部　7回生）	2022.10.05	ご逝去
新行内芳和	（千葉県支部13回生）	2022.10.11	ご逝去
岩谷　和夫	（福島県支部　4回生）	2022.11.01	ご逝去
飯田　英作	（神奈川県支部　3回生）	2022.11.14	ご逝去
橋本　浩一	（大阪府支部26回生）	2022.11.23	ご逝去
山崎　昌彦	（東京都支部13回生）	2022.12.05	ご逝去
井上　　明	（群馬県支部　5回生）	2022.12.17	ご逝去

《編集後記》

137号会報に多数の原稿寄稿を賜り大いに感謝申し上げます。
今回号は学術的な投稿が多く掲載されています。
各支部会、支部連合会での総会および専門分野で研究活躍されている同窓生を講師に迎えての学術講演会の様子が目に浮かび、母校愛が伝わってきます。
次回号では郷土自慢料理、旅の紀行、或は、神歯大学会における研究の誌上発表等々をお寄せいただくと幸いです。

編集委員：加来めぐみ（9回生）　金子宣由（19回生）　濵野奈穂（30回生）　市田佳子（33回生）／
広報担当常務理事　川端啓義（12回生）／アドバイザー　髙橋　朗（12回生）

神奈川歯科大学同窓会会報　137号

発　行：神奈川歯科大学同窓会
〒238-8580　横須賀市稲岡町82
TEL：046-825-0524　FAX：046-823-0510
URL:https://inaoka82.com/　e-mail:ob-jimu@kdu.ac.jp

発行人：大舘　満

発行日：2023年１月20日

印　刷：一世印刷株式会社
〒161-8558　東京都新宿区下落合2-6-22
TEL：03-3952-5651

医科・歯科特化

新規開院　医療法人化　事業承継

税務・会計
TAX ACCOUNTING

SOLUTION
SERVICE

社労士業務
SOCIAL &
LABOR INSURANCE

医業経営
コンサルティング
MEDICAL MANAGEMENT

TAKADA
ACCOUNTING FIRM

みなとみらい税理士法人
髙田会計事務所
所長・税理士　髙田一毅

〒220-0011　横浜市西区高島2-3-25 みなとみらいTAビル
TEL:045-285-8880　FAX:045-285-8881
E-mail: ta@ac-systems.co.jp